

令和8年度大谷場中学校だより



おおやば

第3号

令和8年5月29日(金)発行

学校教育目標

**「より高く、より広く、より深く、より強く」
自立・共生・錬成**

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場 2-13-54 TEL882-9962

HP: <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/> MAIL: oyaba-j@saitama-city.ed.jp

仲間とともに最後まで

校長 山口 泰由

この時期とは思えないほど気温が上昇し、真夏日となった5月19日(火)の体育祭では、多くの保護者の皆様にご来校いただき、温かいご声援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。生徒たちは、仲間からの声援を自らの力に変え、その力を存分に発揮し、最後まで走り抜く姿を見せてくれました。新しいクラスとなって、まだ1か月半。短い準備期間ではありましたが、特に印象的だったのは、学年種目のスタート直前、どのクラスも工夫を凝らしたアピールタイムで団結を高めていた姿。また、学級担任がクラスカラーをベースにしたコスチュームになり、競技中の生徒を鼓舞する光景。閉会式の最後に大きな声で校歌を歌う姿……。大谷場中学校の無限大のパワーを実感することができました。

また、その2日後の5月21日(木)に実施いたしました緊急時引渡し訓練におきましても、ご多用の中ご協力を賜り、誠にありがとうございました。いざという時に子どもたちの安全を守るためには、学校と家庭が同じ方向を向き、連携していくことが不可欠です。あいにくの天候により、急遽室内での引渡しとなりましたが、保護者の皆様のご理解とご協力に、改めて深く感謝申し上げます。

さて、いよいよ5月30日から「学校総合体育大会」が本格的に始まります。3年生の運動部員にとっては、部活動の集大成となる最後の公式戦となります。

1・2年生を含めた選手たちは、入部以来、暑い日も寒い日も練習に励み、仲間と励まし合いながら少しずつ力を積み重ねてきました。時には思うように結果が出ず、心が折れそうになったことや、悔しい思いを経験した日もあったことでしょう。それでもなお、選手たちはコートやグラウンドに立ち続け、「もう一歩」「あと一秒」を積み重ねてきました。

部活動は、単に技術を磨く場にとどまりません。自分の弱さと向き合い、仲間に支えられ、また仲間を支える側にもなりながら、お互いを高め合う。その積み重ねで、子どもたちは大きく成長していきます。だからこそ、最後の大会では、ぜひ「最後の瞬間まであきらめない姿」を見せてほしいと願っています。レギュラーであっても、ベンチやスタンドで応援する部員であっても、全員がチームの一員であり、選手です。大谷場中学校の代表として、最後の最後まで奇跡を信じて戦い抜いてほしいと思います。勝敗以上に、その姿勢こそが、これからの人生を支える確かな力となるからです。

そして、この「最後まであきらめない心」と「仲間を大切にする姿勢」は、いじめの防止にもつながります。梅雨の時期に入り、心身ともに負担を感じやすいこの時期、子どもたちは不安やストレスから衝動的な行動が増え、いじめの認知件数が増加する傾向が見られます。さいたま市では、毎年6月を「いじめ撲滅強化月間」と位置付けており、本校においても、いじめを決して許さず、生徒一人一人を守り抜くために、教職員が連携し、迅速かつ組織的に対応する「大谷場中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止の学級スローガンづくりをはじめ、さまざまな取組を進めてまいります。

いじめには、「①加害者、②被害者、③観衆(見ている人)、④傍観者(気づいても行動しない人)」という4つの立場が存在すると言われてしています。

いじめをなくすためには、加害者への指導だけでなく、周囲の子どもたちが「見て見ぬふりをしない」勇気を持つことが重要です。「それはおかしい」「やめよう」と声を上げること、あるいは信頼できる大人に伝えること。その一歩が、いじめを許さない学校づくりにつながります。部活動で仲間を励まし、支え合う経験は、まさにその勇気を育む土台となるはずです。

生徒たちが、競技においても日常生活においても、「仲間を大切にし、最後まであきらめない心」を育んでいけるよう、学校としても全力で取り組んでまいります。今後とも、子どもたちの成長を保護者の皆様とともに見守り、支えていければ幸いです。引き続き、よろしく願い申し上げます。